

事業計画__鳥取県

【中長期アウトカム】

鳥取県内災害支援活動のネットワークを構築し、得意分野、専門分野のスキルを活かした研修の実施と訓練シナリオを作成し、地域社会への周知と、訓練参加の拡大を図り、PDCAサイクルを重ねることによって、発災時には素早い対応ができる。

目的：鳥取県内における15分野との連携が図れ、各分野の戦略的な個別研修の推進、および多分野合同の被災想定訓練の定着により、各分野の専門支援者と行政が連携した被災者支援体制が鳥取県に構築される。被災者を取りこぼさない、災害関連死を未然に防ぐ支援につなげられる平素の取り組みができる社会となる。

<最終目的>

鳥取県内における15分野との連携が図れ、各分野の戦略的な個別研修の推進、および多分野合同の被災想定訓練の定着により、各分野の専門支援者と行政が連携した被災者支援体制が鳥取県に構築される。被災者を取りこぼさない、災害関連死を未然に防ぐ支援につなげられる平素の取り組みができる社会となる。

事業内容① ＜調査研究・技術開発＞支援体制の整備

2026年7月～2027年3月

紫字：コアメンバー
(ポンディングメンバー)
緑字：事業実施主体団体

【本事業で解決する課題①】

鳥取県において、災害有事における支援がいち早く整い、行政等が補いにくいリソースを整備する支援体制が不足している。

団体が連携し支援するマニュアルがない。

災害など有事の際については、企業、団体等を含む地域コミュニティで自分事と意識している人が少ない。

様々な団体が連携してしなやかな支援体制が図られている地域は少ない。

事業の目標 1

発災時連絡網への登録団体：
把握した支援団体のうち地域や分野の核となる主要団体（全団体数の30%を目安）
・11団体（別表：災害中間支援組織コアメンバー）

【短期アウトカム指標①】

- a)被災者支援に関する鳥取県内での研修の実施と情報収集と分析ができている
3分野（案：子育て支援、障がい者支援、ペット同伴防災）
- b)災害中間支援組織のネットワークのための被災者支援に関する役割分担、情報共有ができている
(11団体)
- c)連携先団体：東中西に広げる
(市町村行政、社協を含め、多種の団体で構成する) …2026.4東部24団体
団体連携のための名簿の作成

【アウトプット①】

- a) 分野ごとの防災研修の提案
2026年7月～2027年2月
3分野への声掛け研修
- b)災害支援のための役割分担、
情報収集会議
・隔月（2ヶ月に1度）程度
・役割分担表の作成
(災害中間支援組織コアメンバー)
- c)発災時連絡網、名簿の整備

【活動①】（事業内容）

- a) 2027年2月ごろまでに、分野を抽出し
防災研修の提案をする
主たる団体とともに研修企画運営
(案：子育て支援、障がい者支援、
ペット同伴防災)
- b)2027年3月までに、災害中間支援組織及び、SDGs災害分科会において協議、会議の整理を行う（参加者が重なることから一本化を提案）
- c)聞き取り団体、研修参加団体より名簿の作成

事業内容② <イベントセミナー>被災想定訓練の実施

2026年7月～2026年10月

紫字：コアメンバー
(ポンディングメンバー)
緑字：事業実施主体団体

【本事業で解決する課題②】

鳥取県において、災害有事における支援のリソースが個々の分野によって防災訓練が行われず状況にあり、状況の整理や15分野全体での全体訓練ができていない。・・・有効なリソースの活用ができていない。

事業目標2

被災想定訓練の実施

- ・参加者の専門分野数
(別表：災害中間支援組織コア)
- ・11分野 (①在宅 ②避難所
⑤食と栄養 ⑥こども ⑦物資
⑧保健医療福祉⑨外国人 ⑩ペット
⑪家屋保全 ⑫暮らしの再建
⑬コミュニティー形成)

【短期アウトカム指標②】

- a) 災害支援15分野の役割を担う団体が参集可能なぼうさいこくたい企画ができる
- b) (災害中間支援組織コアメンバー) による2026年10月17.18日のぼうさいこくたいへの分科会運営
- c) 被災者支援に関する鳥取県内での研修の実施と、情報収集と分析

【アウトプット②】

- a) 関係者調整ぼうさいこくたい出展に向けての企画運営の調整、役割分担
情報共有会議の開催隔月
(2ヶ月に1度) 程度
登壇者、支援団体…鳥取県内外
- b) 2026年10月17.18日のぼうさいこくたい分科会の運営
- c) 鳥取県中部、西部団体への調査・聞き取り、情報収集
2026年7月から12月都度実施
会議・研修の実施 2027年2月／1回 (事業実施主体団体)

【活動②】 (事業内容)

- a) (災害中間支援組織コアメンバー) にて提案された内容の精査と準備を行う・研修シナリオの作成
時期：2026年7月～2026年10月
内容：ぼうさいこくたい
「県内の多様な団体が、平時の活動が災害時にも活かせることを認識し、県内外の団体間のつながりを広げることを目的
参加予定者名簿の作成
- b) (災害中間支援組織コアメンバー) それぞれの役割を担う
時期：2026年10月
参加者名簿、アンケートの整理を行う
- c) 県民活動活性化センターより情報提供
(団体紹介) →災害福祉支援センター・とっとり災害支援連絡協議会が出向し、聞き取る
(2026年7月～2027年12月ごろ)
災害支援に係る会議、研修の実施 (2027年2月ごろ、鳥取県東部にて対面・WEBにて)

事業内容③ ＜調査研究・技術開発＞地域社会への認知拡大 2026年11月～2027年3月

紫字：コアメンバー
(ポンディングメンバー)
緑字：事業実施主体団体

【本事業で解決する課題③】

鳥取県において、15分野における災害への興味関心、必要性の把握が明確ではない。
また、災害支援の取り組みには差がある。

事業目標3

- ・被災想定訓練（多分野によるつながりづくりワークショップ）の検証
- ・検証後の理解促進と参加意識の向上
- ・SNS、メディアでの県内周知

【短期アウトカム指標③】

- a) ぼうさいこくたいの検証により、今後活動の成果と課題の明確化
- b) ぼうさいこくたい検証結果の公表

【アウトプット③】

- a) (災害中間支援組織) のネットワークコアメンバーによる情報共有会議の開催隔月（2ヶ月に1度）程度
- b) 検証結果のHP、SNS等にて発信

【活動①】（事業内容）

- a) 支援体制と被災想定訓練の検証
(災害中間支援組織) で提案されたぼうさいこくたいの成果や課題のとりまとめを行う
次年度への課題の共有
(災害中間支援組織コアメンバー)
時期：2026年11月～2027年3月
参加者名簿、アンケートの整理を行う（事業実施主体）
- b) 検証結果の公表を行う
県民への情報発信と防災意識の醸成
(事業事務局)
時期：2023年3月

事業内容④ ＜その他＞連絡調整基盤の整備 2026年7月～2027年3月

紫字：コアメンバー
(ポンディングメンバー)
緑字：事業実施主体団体

【本事業で解決する課題④】

鳥取県において、災害支援15分野に広げる実施主体の基盤強化する必要がある。事業継続のための人材育成が十分ではない。

事業目標 4

- ・ 本事業の円滑な実施のための官民連携体制整備

(災害中間支援組織コアメンバーの連携)

【短期アウトカム指標③】

- a) 事業実施主体の役割が明確になり専任の人材が配置されている
- b) (災害中間支援組織) の専任チームが明確になっている

【アウトプット④】

- a) 業務環境の整備

事業実施主体にて人材の育成のための新たな雇用1名
(計3名)

- b) 鳥取市若桜町31 カナイビル1Fに事業実施主体を置く
(日本財団との連絡調整)

【活動④】 (事業内容)

- a) 専任チームの組成と、人材育成
(災害中間支援組織コアメンバー)
協議への参加 (通年)
- b) 事業環境の整備
 - ・ 日本財団事業に関する災害支援活動のネットワーク
コアメンバー等への情報発信
 - ・ 事務局協議の実施 (随時)

日本財団プログラム実施体制図(案)

事務局
(事業実
施主体)

特定非営利活動法人とっとり災害支援連絡協議会 : 総括、事業調整、調査 佐藤
特定非営利活動法人とっとり災害支援連絡協議会 : 事業調整、運営、経理 加藤

鳥取県社会福祉協議会災害福祉支援センター
: 事業調整、企画、調査 宮本

連携団体

とっとり県民活動活性化センター
: 事業調整、企画、情報提供 寺坂

bankup

とっとりコミュニ
ティ財団

協力団体 : 情報提供、共有、協議

日野ボランティア
ネットワーク

人と動物の共生
センター

日本赤十字社
鳥取県支部

鳥取県危機管理課

鳥取県福祉保健課

鳥取県協働参画課